

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8-12		
自己評価作成日	平成 26年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170502199-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりのできる力に合わせ役割や、楽しみ事を見つけ家事、散歩や買物に行ったりして、常に利用者と職員が助け合い生活しています。機能訓練として、個別のリハビリや、全員での発声練習、体操、レクリエーションを取り入れ午後の余暇活動を毎日楽しんでいます。今年度の目標として、外出の機会を増やす事も達成でき、冬場のレクリエーションは、皆で鍋やホットプレートを囲みながら、楽しく美味しい一時を過ごしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「笑顔で明るくやさしく」を職員全員で毎朝復唱し、実践につなげて、明るい笑顔が至るところに見られ、住んでいることが楽しいと実感できるグループホームです。ユニットごとに独自性があり、利用者の特徴を活かした取り組みをしています。屋上には家庭菜園があり、遠方に外出困難な利用者にとっては楽しみと共に励みになり有効利用しています。食事の献立づくりから、食材の調達、調理、片付けなど出来る利用者は協力し、職員共々励んでいます。各ユニット別の献立で、利用者本位に支援がされています。町内会との連携も良好で、代表者自ら町内会役員として活躍し、様々な協力が相互にされています。スプリンクラーの設置や防災への取り組みでは、各ユニットで2ヵ月毎に、夜間想定訓練を実施しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、理念を復唱し、確認し、実践につなげるように心がけ、業務にあたっている。	毎朝のミーティングで理念を確認し、先ず笑顔で挨拶を行い、その日のケアに活かした取り組みをしています。ホーム全体は統一することなく、各ユニットの独自性を尊重し利用者本位に工夫されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所経営者自ら、町内会役員をしている為、積極的に町内会行事に参加したり、近所の保育園児が定期的に来訪し、交流を図っている。	職員と利用者は地域や町内会の行事に積極的に参加しています。近所の保育園から園児が毎月来訪し、ユニット訪問は3カ月に一度ですが、利用者の楽しみになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の実態及び、実情を運営推進会議ご通して把握し、協力し合うことを話しあっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、活動報告及び、ご家族様の意見や評価について話し合い、それを更なるサービスの向上に活かせるような、取り組みをしている。	2カ月毎定期的に居間で開催し、出席者が利用者の顔が見える形で有意義な内容の話し合いが行われ記録も整っています。議事録は家族に送付されています。各ユニット会場が持ち回りで利用者が加わったり、関心の高い来訪者との接点でもあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議の機会に情報交換を行い、運営上の不明点など、市の担当者に確認している。	市の担当者とは相談をしたりアドバイスを頂いています。また、区役所の担当者とはケースワーカーとの関わりも多々あり、成年後見制度の利用など具体的な協力関係も築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を開催し、正しく理解できるように努めている。	管理者が外部研修で学び、職員の勉強会で発表し更に深めて学んでいます。具体例を挙げて自分達のホームで取り組む課題を見つけて実践につなげています。マニュアルもいつも見えるところにあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努め、見過ごさないように注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の立場に配慮し、わかり易い言葉で、十分な説明し、疑問点など確認しやすい様、発言の機会に導くように努め、解約時にも同様に理解され、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日頃のコミュニケーションの中で、意見、要望を汲み取る様に努め、御家族とは、来訪時や、電話にて、情報交換をし、運営に反映できるように努めている。	来訪した利用者家族に気軽に声かけをし、信頼度が増して話し合いが出来る体制になっています。介護計画のみならず、些細なことでも運営に活かす努力をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議を開催し、職員からの意見、提案を話し合っている。	毎月の各ユニット会議には管理者も出席し、職員一人ひとりの声を大切に引き取り、リーダー会議で更に詰めて前向きに捕らえ利用者本位のケアに努力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加や、資格取得への支援を行い、各自が、向上心をもって働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの力量を把握し、各自に必要な研修への参加を促し、日常のケアでもアドバイスをしながら、職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員のケアの力量を把握し、各自に必要な研修への参加を促し、日常のケアでもアドバイスをしながら、職員を育てる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、不安、要望等を聞き取り、安心して生活して頂ける関係づくり、環境づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをとり、今後の生活にむけての不安や要望に耳を傾け、話し合いの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族様の希望や、困っている事などの要望をお聞きし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、職員の方が学び、助けられる事が多く、互いに支えあい生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌で様子を伝えたり、電話や来訪時に常に情報交換をしながら、信頼関係を保ち、互いに協力し、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各人の生活暦を理解し、御家族の協力を得ながら外出したり、関係継続の支援に努めている。	隣のケアハウスから入居した利用者にとっては隣が馴染みの場所で、時々デイサービスにお邪魔しています。家族の協力で友人と面談をしたり馴染みの関係を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、座席等の居場所を配慮し、孤立しないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、必要に応じ相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から、その人らしい暮らし方とは、何かと職員間で、常に検討している。	利用者に職員の担当を決めてより深く寄り添い関わりを多くして、思いの把握に努力をしています。食事の好みを活かして献立に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で入居時の基本情報より、情報を共有、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、温度板を活用し、健康状態・精神状態の変化等を注意し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録、温度板を活用し、健康状態・精神状態の変化等を注意し、把握に努めている。	担当者が現況を見直しユニット会議で十分検討し、家族の意見も組み入れて介護計画を作成しています。医師や看護師など関係者の意向を視野に入れて、その人らしさの現状に即した介護計画にしています。急な変更も臨機応変に対応し、日々の生活を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳を活用し、気づきや工夫を記録し、職員で情報交換しながら、経過を観察し、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアにて、買物や、外食に出掛けたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園等のボランティアの協力を得て、地域で生活している事が実感できる機会をつくり楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関による月2回の訪問往診や、かかりつけ医の受診支援をしている。	入居以前からのかかりつけ医療機関を大事にし、本人と家族の希望を重視した受診を支援しています。利便性からホームのかかりつけ医師の受診に変更する場合は連携を密にし、安心した医療が受けれるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	具体的な疾患症状や、注意点などアドバイスしてもらい、気付いた症状など相談したり、次の受診の際、医師への報告などが、円滑におこなえる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院においては、医療機関と情報交換するなど連携に努め、利用者が安心して治療できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化したときの対応指針を説明し、書類にて同意をえている。	入居時に重度化の指針を取り交わしています。同意を得ていますが、実際に重度化したときは関係者と十分話し合い、状況による対応をしています。個別の対応で一律ではありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備え活用したり、救命講習会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災避難訓練を2か月に1度行っている。	ユニット毎に別々に夜間想定のみ防災訓練を2か月毎に実施しています。しかし、ホーム全体での取り組みはみられません。	訓練は各ユニットだけでなく、ホーム全体で実施できることを望みます。また、昼間の訓練も大切です。地域とのつながりも視野に入れての取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重視した声かけ、対応を行い、プライバシーに配慮した支援を行っている。	利用者の特性を把握して、人格を重んじ、声かけや対応に配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン見直し等、多くの選択の機会を作るように努め、その中で自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするにも必ず本人の意向を確認し、その日の体調に合わせたペースを大切にし、安心して生活できる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを理解し、季節や場所に応じたおしゃれが楽しめる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューの希望を取ったり、旬の食材を取り入れ、調理の出来る方と一緒に準備、片付けを行っている。	食事を日々のケアの中で重要視しています。楽しい雰囲気、美味しく食べることを主眼に食品の数を多くし利用者向けの味付けで、介助もしっかりしています。台所を生きがいに手伝う利用者もいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目を目標に栄養が摂れる様に心がけ、個々に応じて、形態を変え提供し、水分量も1日を通して確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、本人の力を引き出しながら、起床時、毎食後口腔ケアを支援、介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、自尊心を損なうことがない様心掛け、トイレで排泄できるよう支援している。	個々に排泄パターンを把握し、出来るだけトイレを使用するように誘導しています。オムツ使用の方には清潔に気持ちよく過ごせるように配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを常に把握し、水分量の確保、飲食物の工夫、運動の促し等、便秘予防に努め、自力排泄が出来るように取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれがリラックスし入浴できるよう支援している。	入浴を拒む利用者には、声かけの工夫や、介助者選びなどで入浴をすすめ、無理強いしないで週1を目途に支援しています。好む方には、職員との関わりを大事にして満足度を増しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを把握し、夜間良眠出来るよう、日中の休息も取り入れ支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方、服薬状態を理解し、安全に服薬で着るよう支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課に、体操やレクリエーションを取り入れ、気分転換を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮し、個々の希望に沿えるように外出先を検討し、御家族様にも協力して頂き、支援している。	ホームの外出行事もありますが、個別の支援に配慮して、それぞれの楽しみを演出しています。屋外に出かけるのが大変な方は、屋上の家庭菜園で楽しみ、外出気分を味わっています。散歩や買い物同行など、職員はこまめに外出支援の場面設定をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談し、自由に買物が出来るよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など自由に連絡できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間作り、季節の装飾や、くつろげる場所を造り、心地よく生活が出来るようにしている。	後からスプリンクラーを設置したため、パイプの露出がありますが、違和感なく暖かい雰囲気の工夫があるホームです。食卓テーブルは利用者の状況に合わせて配置換えをし、落ち着いた居間になっています。壁面の利用も各ユニットでそれぞれ利用者の合わせた工夫が見られます。暖房は安全ガード付きパネルヒーター外断熱工法で、健康にやさしいエアサイクルで夏は涼しく、冬は暖かく快適なホームです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な空間作り、季節の装飾や、くつろげる場所を造り、心地よく生活が出来るようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、居心地のよい居室になるように工夫している。	居室の前にガラスの飾り棚があり、各々その人らしく飾りつけがあります。仏壇やタンス、戸棚など馴染みの家具を持ち込み、個性のある居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷い、混乱しないような環境づくりを心がけ、安全に生活していただけるように工夫している。			